

よろこび

日蓮宗 願聖会

本山 妙願寺

長谷山 本誓寺

『よろこび』六十一（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

幸福とは何かずっと思索してきたが、神仏が人間として分霊したこと、目的の成就に大きな喜びと成就がある。その目的とは個の霊の経験による進歩と調和であり、総ての個体霊の融合による進歩意識の進化と調和である。故に人は他の人と心を通わせ理解し合うこと、助け合い共感することに大きな幸福感を感じる。

東日本大震災で日本は大いなる物質的損失被り、尊い数多くの命を失ったが、日本が復興に前進しつつあるのは、日本人が心一つにして復興という共通の目的に努力したからである。

個々人の経験、知恵、奉仕による功德等は、人々の心と心の調和による総和の集合人格の形成により総合され人類意識を光明化する。

人類意識の光明化によってコロナウイルスも無害化しよう。



みおしえ

「この身体は、水瓶のように脆いものだとして、この心を城郭のように（堅固に）安立して、智慧の武器をもって、悪魔と戦え。克ち得たものを守れ。」「しかもそれに執着することなく。（法句經四〇中村元訳）」

この法は、仏がサーバティーにおられたとき、親の行法に努める比丘達について説かれたものです。五百の比丘が、修行のため密林に入った。密林に住む神々は、比丘達を、じゃまに感じ、化け物を顕し比丘達を怖がらせた。比丘達が仏に報告すると、仏は、比丘達を守る武器として慈悲を授けた。彼らが慈悲を樹神達に広げると森は静寂となった。その比丘達は皆阿羅漢となったという。

この句は、この身体は無力で脆いゆえ瓶のようなものです。心を城壁に包まれた都のように安定させ、智慧を武器とし悪魔という煩惱と戦い、調和された心を守れ。しかもその境地に執着せず、止まるなれ」という意味です。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え
心を安定させ智慧を武器とし
煩惱と戦い悟りにあれ

